

令和元年 第6回 根室市教育委員会 会議録

1. 公開案件の審議

なし

2. 非公開案件の審議（会議録省略）

(1) 議案第21号 令和元年度根室市文化賞（奨励賞）の決定について

結論 原案どおり決定

(2) 報告第5号 教育上特別な支援を必要とする児童の教育措置決定の報告について

結論 報告を承認

3. 意見交換

○目的

教育行政の課題についての情報共有、さらには頂いた意見を今後の事務を進める上での参考とするために行うもの

○テーマ

- ・「新規採用教職員の育成について」

【 教育部長 】

今回の意見交換テーマは、「新規採用教職員の育成について」とする。根室管内は全道的にみても新規採用教職員が多く配置される地域といえる。その中でも本年の4月1日付けで根室市に配置された新規採用職員数は管内においても最多となっており、根室市24名、別海町8名、中標津町19名、標津町5名、羅臼町9名の65名が根室管内に配置された新規採用教職員ということになる。新規採用教職員をたくさん抱える地域として、この町で教職の生活をスタートする先生方がながく勤めながら様々な経験を積み、社会人として成長していくための研修機会等を一層充実していく必要があると考えるところである。道教委、根室教育局が主催する研修は初任段階研修としてあり、今年度入った先生は5月、7月、12月に研修があり、これが年3回じゃない場合もあるが、5年次まで毎年研修が継続される。市教委として主催する研修は、本年11月6日に予定している連携研修講座があり、これは道立教育研究所と共催し、本年度は学力向上と生徒指導をテーマに開催を予定している。この研修は毎年3月頃に、各学校からどんな研修テーマを希望するかを集約し、本年度は学力向上と生徒指導をテーマに開催することになったところである。最近報道でもあったが、先生同士のいじめという驚くような事件があったが、先生のみならず、新人のうちの社会経験があまりにも少なく、学力が高くても人間関係がうまく築けないということが多く、仕事上で躓いてしまうということがある。これからこういった新人職員を抱えた根室地域として教員にどういう事を学んで生活に生かしてもらおうのか、人生に生かしてもらおうのか、今後の参考にするため意見を伺いたい。

【 教育長 】

先ほどの部長の説明に付け加えると、他管内出身の30~40代の先生はだいたい根室管内から出たがる傾向があり、逆に他管内から現職の先生が根室管内に入ってくるのが少ないため、30~40代の先生が出て行ったあとの定数を埋めるためには新規採用教職員で埋めるしかないという事情がある。また、道教委としては、新規採用教職員は出来るだけ複式や小規模の学校ではなく、大きな学校に入れるという原則を持っているため、そうなる根室と中標津に集中してしまうという状況になっている。新規採用職員の中には、期限付教諭として勤務していたという人も結構な数がいて、そういう人に関してはある程度教員の経験をもっているという人もいますし、そういう所は千差万別というところも実はある。いずれにしても、教員に対する様々なバックアップをすることが大事だと考えているため、いろいろな意見を頂ければと思う。

【 教育指導参事 】

私が根室に赴任した時の初任者の教員人数は当時70人で、2年後には100人を超えていた。その時にはまだ根室管内的に中堅職員・ベテラン職員が多かった時代だったので、初任者はベテラン職員のもとで勉強する機会や学ぶ機会がたくさんあった。しかし、最近はある程度の年齢になったら地元に戻る先生方が増えてきて、根室の勤務の条件も7年、8年以上いたら地元の管内に帰れるという人事要綱が出来ているため、10年頑張れば地元に戻れると考えている教職員も非常に多い。そう考えると、ある程度の30代~40代の年齢層の人がみんな他管内に出て行ってしまいうため、ベテランの先生や中堅層が残らない状況になっていて、極端に言えば28歳、29歳で学年主任や生徒指導部長を任されるというのが根室の学校の実態だと思う。このような状況もあって、初任者の先生が入ってきたときに、その初任者の先生を支える先生方が若いということもあって対応しきれない、精神的にまいった時でも対応しきれないということもあると思う。また、道教委が主催する研修会に行っても、授業や生徒指導をどうしたらいいという仕事面での研修は出来ませんが、本当の所の悩みを解決する研修というのは職場の中でしていかなければならないというのが最近の根室の現状ではないでしょうか。ただ、このことについては教員の世界だけではなくて、市役所も道職員も含めてそういう傾向があるのかなと感じる。どの企業においても初めて就職したところで、初めての経験に出くわした時に、コミュニケーション能力やいろんな社会勉強をしてきた人としてない人の差は出てくると思う。現在、学校現場ではメンター研修といって2、3人の若い先生に対して中堅の30代~40代の先生が一人ついて定期的にいろんな相談に乗るような研修体制は作っているが、なかなか悩んでいる先生方を救うことができない状況である。

【 委 員 】

やはり教員になろうという人は真面目な方で、テストの成績が優秀で、品行方正な方で、どうしてもそういう世間の荒波というものに慣れてないのかなと感じる。以前、管内のPTAの研修会に行ったときに、ある高校の校長先生が、先生方に学校の先生同士の仲間意識だけではなくて町の行事に参加して、町の人といろんなこと

をしなさいと話していると言っていた。その当時の花咲小学校の校長が、神輿を担ぎなさいと若手職員が神輿会を立ち上げたり、色々取り組ませていたが、そういう風にしていかなかったら、せっかく根室に来てくれているのに行事に関係なくでもったいないと思っていたが、今は先生が忙しいから行事に付き合っている余裕はないのかなとも思う。

【 教育長 】

地域ともっと交流した方がいいというのは常に出てくる要素ではある。

【 委 員 】

中学校の話ですが、以前、中学校で3学期が終わって先生方を囲んで保護者がありがとうございましたと伝える食事会のような企画をしたことを校長に言うと、参加する先生が立派です、保護者と一緒にご苦労様でした、ありがとうございましたとやり取りできる先生は人間として立派な人ですと話していた。

【 教育指導参事 】

保護者と交流するのが苦手な先生もいるし、そういうのが得意だという先生もいる。ただ、学校という現場で考えると、保護者との交流は大事だと思う。交流がないと子どもの成長はいい方向に進まないのかなと。こういう交流ができる人は保護者とのトラブルが起きることが少ない。それだけ保護者と連絡を密にしたり、子どもの状況を何らかの形で保護者に伝えたりしているので、何かあった時に保護者がちゃんと先生を助けてくれる。逆に、保護者との交流を苦手としている人は、連絡手段が一方的で保護者の考え方をくみ取ることができないためトラブルが起りやすい。ある学校は保護者の皆さんと一緒に子どもの卒業を祝う会を行っていて、先生方も学年の先生方だけではなくて、全員の先生方が招待され、参加は自由になっているが、人数も集まってお疲れ様でしたとやっている。それがすべていいというわけではないが、こういった交流も必要ではないかな感じている。やはりお酒が苦手だったらそういった会は出たくない人もいれば、普段の参観日は出てこないが、飲み会だけは出てくる保護者もいる。いろいろあるが、保護者と学校の先生が交流するというのはどういう形であれ大切なことだな私は思っている。交流があれば保護者が逆に若い先生をサポートしてくれて、その先生を担任としてそれだけの力をつけさせてくれる。そういう環境もあると思う。だから学校によっては保護者の力を借りて、若い先生を育ててほしいなと思う。でも、それを拒む先生がいたら、どうしたらいいのかなという考えになっていくと思う。若い先生にとっては、保護者は自分よりも年上のため、保護者から子育てでもしたことないのになに偉そうなこと言っているのと言われてしまうとなにも言えなくなってしまうし、逆に子育てを経験している先生の方が信頼できるという見方もされることもあるだろうし、そういうところにギャップを感じて苦しい思いをするという若い先生も多いと思うが、声掛けも難しい時代である。

【 委 員 】

小さいコミュニティでもトップと先生方というのはコミュニケーションが意外と取れてないのではないのかなと感じる。こういった事に対して抜本的に物事を解決する方法はないと思うが、地道にコミュニケーションをとっていくしかない。

【 教育長 】

コミュニケーションをとれたら解決することはたくさんあると思う。

【 教育指導参事 】

私も校長の時に、若い先生が多かったため、一日に一回は声をかけなければいけないと思い、毎日授業をみながら頑張っているかなと観察していた。なにか変だなと感じたときに、放課後などで声をかけてみると、やはり何かトラブルが起きていて、そういう時には教頭と相談をし、細かいフォローをしていた。なんらかの形で職場の人とコミュニケーションを取ることは大事なことだなと思う。ただ、誤解されて捉えられることもあるため、そこを解消するためにもコミュニケーションは必要だなと感じた。

【 委 員 】

私はサークルに入っているが、サークルの中で転勤族の方が、職場の他にこういったコミュニティがあつてよかったと話していた。職場だけではなく、趣味でも何でもいいので、職場とは違うコミュニティを持つことも大事であり、職種が違った人とつながることも大事な事かなと感じる。

【 委 員 】

働き方改革がと言われているが、地域との交流に積極的に参加したいと思う人は、自分の時間を取られていると思わずに行動していると思う。それが強制だと思えばどんなことでも嫌になってしまうと思うが、最終的にはコミュニケーションの能力の話もあつたが、個人の能力になってしまうのかなと思う。また、若い先生だと保護者から下に見られてしまうことがあると思うが、子どもたちの先輩くらいの気持ちで接してもらえたらいいなと感じる。先生が子育てしたことがないという話になったとしても、先生は小学校、中学校、高校、大学と経験して、少なくとも子どもたちよりは少し先に生きている先輩であり、子どもたちの親よりも近い存在なわけですから、人生の先輩として十分子どもたちに自分が体験したこと、経験したことを教えることは十分出来ると思う。あまり高所にたつて先生、先生となるのではなくて、子どもたちの人生の先輩として、子どもたちに接してもらったり、親に接してもらった方がきっとスムーズにいくのかなと思う。

【 教育長 】

千差万別の話なので、ひとつの答えの話ではないのだろうと思う。教育委員会としてもいろいろなことを対処していく必要があるため、本日頂いた意見を参考にし、検討していきたいと思う。

午後2時30分 閉会